愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2023年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	専門演習III		
担当者(Instructors)	小島 正憲	配当年次(Dividend year)	4
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	必修

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

専門演習IIIでは、学生自身が興味のある研究（テーマ・内容）を見出し、ゼミ論分及び卒業研究（論文）作成や発表をするための必要なスキルを身に付ける。特に、体育教育やスポーツに関わる様々な情報を抽出することで、調査したいテーマや内容についての理解を深めつつ、論理的な考え方を身に付ける。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	演習形式で授業を実施する。具体的には、ディスカッション及びグループワーク、ゼミ論文及び卒業研究（論文）の作成とプレゼンテーションを行う。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション	授業の進め方や注意点等を説明する。	□
第2回	論文の作成（書き方の説明）	参考資料をもとに、ゼミ論文及び卒業論文の書き方を説明する。	□
第3回	論文の作成（テーマを考える）	参考資料やWEB検索をしながら、ゼミ論文及び卒業論文のテーマについて考える。	□
第4回	論文の作成（テーマの設定）	参考資料やWEB検索をしながら、ゼミ論文及び卒業論文のテーマについて考える。その後にテーマを設定し、発表する。	□
第5回	論文の作成（文献調査）	各自で行動し、ゼミ論文及び卒業論文の文献調査を行う（図書館・PC室・研究室を使用する）。	□
第6回	論文の作成（文献調査の報告）	各自で行動し、ゼミ論文及び卒業論文の文献調査を行う（図書館・PC室・研究室を使用する）。また、文献調査の現状報告をする。	□
第7回	論文の作成（文献調査）	各自で行動し、ゼミ論文及び卒業論文の文献調査を行う（図書館・PC室・研究室を使用する）。	□
第8回	論文の作成（文献調査の報告とまとめ）	各自で行動し、ゼミ論文及び卒業論文の文献調査を行う（図書館・PC室・研究室を使用する）。また、文献調査の現状報告をする。	□
第9回	論文の作成（テーマの見直し）	前回の文献調査をもとに、再度テーマを考えさせる。その後にテーマを設定し、発表する。	□
第10回	論文の作成（研究計画を立てる）	ゼミ論文及び卒業論文を計画通りに進めるための、研究計画を立てる。その後、研究計画書を作成する。	□
第11回	論文の作成（研究デザインを考える）	ゼミ論文及び卒業論文を正確に書くための、研究デザインを考える。	□
第12回	論文の作成（研究デザイン資料を作成）	ゼミ論文及び卒業論文を正確に書くための、研究デザインを考える。その後、研究デザイン資料を作成する。	□
第13回	論文の作成（研究方法を考える）	前回の研究デザイン資料に沿って、研究方法を考える。	□
第14回	論文の作成（中間プレゼンテーション）	ゼミ論文及び卒業論文の中間プレゼンテーションをする。発表後は、質疑応答を行う。	□
第15回	授業のまとめ	授業全体の振り返りをする。また、各自の研究計画を見直す。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

事前学習として、各回の授業に関連する資料や文献を読解するなどの予習をしたうえで、次回の授業に臨むこと（毎週2時間）。事後学習として、各授業で学んだ内容を整理し、自分なりにまとめておくこと（毎週2時間）。具体的には、 各回で必要とする資料や課題等の準備物「テキスト・参考文献・web調査・研究室訪問」を活用し、質の高い内容に仕上げる。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

課題については即時に教員がチェックし、改善点を指導する。また、その改善点については、ゼミ内全体に情報共有できるよう適宜学生に伝える。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
思考力・判断力・表現力	◆ 2019人間健康DP2	体育・スポーツ分野の文献調査やWEB調査をし、各領域における問題を把握しながら自身の考えを持ちつつ客観的な考えを取り入れることで、解決策や対応策を探求できる。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			100%	

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

成績評価の内訳は【プレゼンテーション：40%、研究計画書・研究デザイン資料：60%の計100%】とし、全て授業内に実施する。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	世界思想社編集部、大学生　学びのハンドブック（4訂版）、世界思想社	978-4-7907-1707-2
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	石井一成、ゼロからわかる大学生のためのレポート・論文の書き方、ナツメ社	978-4-8163-5057-3
2		
3		
4		
5		